

福井県知事
西川一誠 殿

高浜原子力発電所3、4号機の再稼働に反対します

生活協同組合パルシステム東京
理事長 野々山 理恵子

私たちパルシステム東京は『「食べもの」「地球環境」「人」を大切にしたい「社会」をつくりたい』を理念に掲げ、約44万人の組合員を擁する生活協同組合です。

福井県西川一誠知事は昨年12月22日に関西電力・高浜原子力発電所（以下、高浜原発）3、4号機の再稼働への同意を表明しました。これを受け、12月25日に関西電力は福井県高浜町の高浜原発3号機の原子炉に核燃料を装着する作業を開始し、1月下旬には再稼働するとしています。

パルシステム東京は、高浜原発3、4号機の再稼働同意の撤回を強く求めます。

西川知事は昨年12月22日の記者会見で、安倍晋三首相が18日の原子力防災会議で再稼働のみならず防災対策や廃炉、使用済み燃料対策など原子力政策全般に責任を持って取り組むと発言したことを評価し、再稼働に同意されました。しかし、福島の実状を見れば、原子力発電所で苛酷事故が起こった場合、誰も責任を取りきれないものでないことは明らかです。

唯一立地県以外にPAZ圏域を有する京都府知事および滋賀県知事は同意していません。また、パルシステム東京では、2015年1月15日に原子力規制委員会へ『関西電力株式会社高浜原子力発電所3号炉及び4号炉の発電用原子力設置変更許可申請書に関する審査書案』に対する意見書で、再稼働ありきの審査書案を撤廃し、以下を実行するよう求めましたが、いずれも解決していません。子どもたちの未来のためにも、高浜原発3、4号機の再稼働同意の撤回を求めます。

1. 東京電力福島第一原子力発電所の事故の収束を優先するべきです。

東京電力福島原子力発電所の事故原因の調査と何よりも事故の収束こそ、最優先で取り組むべきです。事故原因が究明されるまで高浜原発3号機を再稼働しないでください。

2. プルトニウムMOX燃料は使用すべきではありません。

高浜原発はウラン燃料用に設計された原子炉です。プルトニウムがあらかじめ入っているMOX燃料を使用すると事故のリスクが高まります。MOX燃料であると苛酷事故が起こった場合被害が拡大する恐れがあります。またMOX燃料は、コストが高く、使用済みウラン燃料より発熱量が高いため原発燃料プールへの保存期間も長くなります。MOX燃料の使用を中止してください。

3. 事故時の住民の避難計画の実効性を確保してください。

福井県南部には高浜原発から二十キロ圏内に大飯原発、五十キロ圏内に美浜原発、その他に敦賀原発があります。地震などで同時に事故が起きる可能性もあります。また避難の想定が甘く、要援護者の避難先や避難方法、安定ヨウ素剤の配付方法が不明など実効性のある避難計画ではありません。実効性のある避難計画を早急に作成してください。

以上